

=====  
◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol. 34 ◇◆  
2011年7月1日号

=====  
このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
  - ・ 第8回日本市民安全学会豊島大会 としま安全・安心フェスタ2011  
「セーフコミュニティの力」それは人のつながりから  
分科会「子どもと学校における安全・安心の創造」参加レポート
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
  - ・ 国の取組み情報
  - ・ イベント情報
  - ・ 見どころピックアップ！
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング  
今月一番注目されたコンテンツとは・・・
5. 今月のキーワード  
Ai

◆◆◆◆◆  
東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、皆様の安全と一日も早い復興をお祈りいたします。

梅雨の晴れ間に日差しの強さやジリジリとした暑さを感じられるようになり、夏の気配が日々色濃くなっています。今年の夏は関東・東北地方を中心に電力不足が叫ばれており、節電に向けた動きが活発です。その一方で、節電の影響で町が暗くなって、安全面に不安が出るなどの懸念も報道されています。

子どもの安全に関しても様々な動きがありました。国会の会期が延長されるのに伴って、自民党と公明党が「児童買春・児童ポルノ禁止法改正案」を今国会に提出するというのです。この法案には、これまで禁じていなかった児童ポルノの単純所持の禁止が盛り込まれています。民主党も法案協議に応じる姿勢のようで、今後の展開に要注目です。

東京都教育委員会が、学校非公式サイト等の監視結果を踏まえて、教員向けの指導事例集を作成しました。事例を基にこういった冊子が作成されたのは全国初だそうです。

冊子の特徴として、指導事例集には、児童・生徒の指導にすぐに活用できるよう、予想される問題、指導のポイントなどが掲載され、活用の手引には、保護者や地域住民等への適切な対応ができるよう、問合せや要望等への具体的な対応の仕方などが掲載されているとのこと。都内の全公立学校に配布され、児童・生徒への指導に活用されるようです。

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/pr110609b.htm>

東京都が、子どもたちが安全に利用できるよう、携帯電話端末等の推奨制度の基準を取りまとめました。この制度は、保護者が、青少年に携帯電話端末等を持たせる必要があると判断した場合に、携帯電話端末等やサービスを選ぶための目安・参考としてもらうためのものだそうです。

推奨基準では、利用時期を「専ら保護者等との連絡のために携帯電話を利用する時期（おおむね小学生程度）」と、「インターネット利用について学習している時期（おおむね中学生以上）」の2つに区分し、それぞれに主な要件を設けています。

具体的には、前者では「インターネット利用ができない」、「保護者の望まない相手と連絡を取ることを防止すること」などが、後者では「インターネット上のウェブサイト利用は、携帯電話事業者等の推奨サイト（ホワイトリスト）及び保護者が個別に許可したもののみ」、「深夜の利用制限ができる」などが要件となっています。7月以降に携帯電話事業者からの申請を受け付け、その申請に基づき、10月以降に開催予定の学識経験者等からなる検討委員会を経て、推奨携帯電話が販売される予定だそうです。

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/KONDAN/2011/06/40161100.htm>

ここからは、今号の紹介です。

東京都豊島区は、WHOの提唱する世界基準の安全安心まちづくり「セーフコミュニティ」の認証を目指して、官民一体で積極的な取組みを展開しています。そんな豊島区で今月中旬、第8回日本市民安全学会豊島大会が開催されました。3つある分科会のうちのひとつが「子どもと学校における安全・安心の創造」がテーマとなっており、当領域のプロジェクト関係者2名が登壇しました。当日の様子は今号のレポートに掲載していますので、ぜひご覧ください。

---

## 1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

---

今月の領域およびプロジェクトの動きをご紹介します。まずはプロジェクト関連のイベントについてご案内いたします。

7月9日に、第2回 教育ITソリューションEXPO教育 ITソリューション 専門セミナー 登下校セキュリティ「附属池田小の安全管理の取組み～10年前の事件を乗り越え、世界的に評価されるまで～」において、「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」プロジェクトの

代表者藤田大輔氏が登壇されます。

<http://www.edix-expo.jp/ja/Conference/seminar-event/seminar-event04/>

当領域のキャラバン企画として、7月24日には、日本教育心理学会第53回(2011年度)総会において、「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」プロジェクトによる自主シンポジウム「子どもの安全：ネット社会での子どもの被害と加害を防ぐには？」が開催されます。「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発」「子どもの犯罪に関わる電子掲示板記事の収集・監視手法の検討」プロジェクトの実施者も登壇します。

自主シンポジウム：[http://www.jaep-forum.jp/images/independent\\_program.pdf](http://www.jaep-forum.jp/images/independent_program.pdf)  
総会：<http://www.jaep-forum.jp/>

7月30日には大阪府堺市でもキャラバン企画を実施。「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトを中心に、プロジェクトの取組みだけに留まらず、この度の震災も視野にいれ、幅広い視点で子どもの安全やコミュニティについて考えていけるようなイベントとなる予定です。詳細はメールマガジンやWEBサイト等で改めてご案内させていただきます。

ここからは、6月中に各プロジェクトで実施された会議等の活動についての報告です。

冒頭でもご紹介した6月11日のイベントですが、「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」および「虐待など意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」プロジェクトの実施者の方が登壇しました。当日の様子や議論の内容等は、犯罪からの子どもの安全レポートに掲載しておりますので、そちらをご参照ください。

「演劇ワークショップをコアとした地域防犯ネットワークの構築」プロジェクトは、公立の小学6年生を対象とし、インターネットを介した犯罪被害の予防をテーマに、5月末より複数回に渡りワークショップを開催しました。

「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」は、6月18日に連絡協議会を開催しました。プロジェクト実施者、協力校それぞれからこの1年間の報告が行われました。学校毎にさまざまな工夫をしてプログラムを導入している様子。今後の実施に向け、学校相互でも熱心に情報交換もなされました。

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトは、6月19日に全体調整会議を開催しました。4つのグループの実施者が集まり、お互いの進捗状況を確認。一部がウェブ上で公開となっている計画的な防犯まちづくりのためのマニュアルが、どうしたらより有用なものになるのか、丁寧に議論を重ねている様子が印象的でした。

---

## 2. 犯罪からの子どもの安全レポート

---

- 第8回日本市民安全学会豊島大会 としま安全・安心フェスタ2011  
「セーフコミュニティの力」それは人のつながりから  
分科会「子どもと学校における安全・安心の創造」参加レポート  
2011年6月11日 豊島区立勤労福祉会館（東京都豊島区）

みなさん、「セーフコミュニティ」の認証制度をご存じでしょうか？これは、WHOが提唱する世界基準の安心・安全なまちづくりを目指す取り組みです。

「すでに完全に安全な状態である」コミュニティではなく、「安全の推進のために、地域住民・行政、企業など様々な主体が連携・協働し、継続的な取り組みが展開している地域」つまり、安全な地域づくりのため、体系だった方法によって取り組んでいるかどうか、そのプロセスを評価しようというユニークな制度です。

日本でも厚木市他いくつかの地域が認証されており、豊島区も平成24年度の認証を目指し官民一体で積極的な取り組みを展開しています。今回のフェスタは、その一環として開催。基調講演に続き、「長寿社会」「交通安全」「子どもの安全」をテーマにした分科会が開催されました。

分科会の1つ、「子どもと学校における安全・安心の創造」では、子どもたちの生活の場を、学校・遊び場・家庭と大きく3つに分け、それぞれについてどのように子どもたちの安全安心を守っていくのか、具体的取り組みの紹介が行われました。

学校については、豊島区だけでなく、WHOのインターナショナルセーフスクール（ISS）に認証された厚木市立清水小学校より具体的取り組みを紹介。

遊び場については、PASMO・Suicaを子どもがタッチするたびに、保護者へ自動的にメールが届く鉄道事業者による子どもの安否情報システムや、夜道の安全・安心を目指した防犯照明の実践例が紹介されました。本領域からも、「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトが、放課後における子どもの犯罪被害の測定と科学的な防犯活動の在り方について発表。

家庭については、「虐待など意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」プロジェクトが、その取り組みや成果の紹介を行いました。

登壇者の立場はさまざま。話題は多岐に渡り、子どもの安全に関わるステークホルダーの幅広さと、アプローチの多様性を改めて認識すると同時に、共通項も見つかりました。それは、子どもの安全を守るために、まず何が問題であるのか実態を明らかにし、対策を講じ、それによって得られた成果の評価を試み、改善に向けた次なるアクションにつなげていこうとしているという点です。

例えば厚木市立清水小学校の安心安全に向けた学校づくりでは、子どもたちの取り組みの一つとして、校内のマップ作りをしています。怪我をした子どもが怪我の発生場所にシールを貼り、予防のために今後どうすればいいのかを子どもたちで話し合うのだそうです。そういった取り組みの結果、廊下を走らなくなったなど、子どもたちの安全意識の向上や行動に変化が生まれたとのこと。

セーフコミュニティでは、地域で起こった事件や事故によるケガの情報を継続的に収集・分析し、予防に結び付ける外傷サーベイランスの仕組みづくりが求められており、豊島区でも検討が進められています。

このサーベイランスの考え方は、領域目標として掲げている「科学的根拠に基づく犯罪対策」と通じるものであり、今回の各講演者の方々の具体的取り組みを通し、改めて、根拠のある具体的な安心・安全対策を講じていくことの重要性を認識しました。

(領域担当 M. W.)

---

### 3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

---

#### 【更新情報】

#### ●国の取組み

平成23年版「犯罪被害者白書」（平成23年6月3日閣議決定）を公表しました  
(内閣府)  
<http://www8.cao.go.jp/hanzai/kohyo/whitepaper/whitepaper.html>

青少年インターネット環境の整備等に関する検討（第10回）の議事次第及び  
議事概要の掲載について（内閣府）  
<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/kentokai/index.html#10>

“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える  
地域のチカラ～（法務省）  
[http://www.moj.go.jp/hogo1/kouseihogoshinkou/hogo\\_hogo06.html](http://www.moj.go.jp/hogo1/kouseihogoshinkou/hogo_hogo06.html)

死刑の在り方についての勉強会（第5回）の開催について（法務省）  
[http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji12\\_00031.html](http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji12_00031.html)

民生委員・児童委員について（厚生労働省）  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/seikatsuhogo/minseiiin.html>

第9回死因究明に資する死亡時画像診断の活用に関する検討会議事次第  
(厚生労働省)  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000014gy7.html>

GIS活用人材育成プログラム・テキスト等の公表について（国土交通省）  
[http://www.mlit.go.jp/report/press/kokudo08\\_hh\\_000027.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kokudo08_hh_000027.html)

その他の取組みについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

#### ●イベント情報

平成23年7月3日 日本子ども社会学会 第18回大会公開シンポジウム  
「困難を有する子ども」の支援を問いかける  
<http://js-cs.jp/0001/kodomo/c01.html>

平成23年7月9日 第2回 教育ITソリューションEXPO  
教育ITソリューション 専門セミナー 登下校セキュリティ  
附属池田小の安全管理の取組み  
～10年前の事件を乗り越え、世界的に評価されるまで～  
<http://www.edix-expo.jp/ja/Conference/seminar-event/seminar-event04/>

平成23年7月24日～日本教育心理学会第53回(2011年度)総会  
自主シンポジウム「子どもの安全：ネット社会での

## 子どもの被害と加害を防ぐには？」

自主シンポジウム：

[http://www.jaep-forum.jp/images/independent\\_program.pdf](http://www.jaep-forum.jp/images/independent_program.pdf)

総会：<http://www.jaep-forum.jp/>

その他のイベントについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



### 【見どころピックアップ！】

今回の見どころはトピックスから、第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム開催報告です。

掲載自体は少し前に行っておりましたが、ここで改めてご紹介をさせていただきます。

このシンポジウムでは、「『虐待かも・・・』小さなサインを、大きな支援へ」と題し、本領域で虐待に関する取組みを行っている研究開発プロジェクトの実施者による講演や、実務のご経験も豊富な方々をゲストパネリストとしてお招きしてパネルディスカッションを実施しました。

当日の様子や講演内容は、取材記事として掲載していますので、こちらも併せてご覧ください。

第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム開催報告

→ [http://www.anzen-kodomo.jp/column/kyoudou/20110523\\_symposium.html](http://www.anzen-kodomo.jp/column/kyoudou/20110523_symposium.html)

当日の様子（取材記事）

→ [http://www.anzen-kodomo.jp/column/kyoudou/sympo04/ki\\_ji.pdf](http://www.anzen-kodomo.jp/column/kyoudou/sympo04/ki_ji.pdf)

---

## 4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

---

### 【アクセスランキング】

- ☆1位 プロジェクト関与者インタビュー  
携帯電話、インターネット問題の怖さを子どもを見守る親の立場から伝えたい（ぐんま子どもセーフネット活動委員会）  
[http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad\\_04.pdf](http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad_04.pdf)
- 2位 第1回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム 予稿集  
<http://anzen-kodomo.jp/column/20080228/img/yokou.pdf>
- 3位 第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム  
山中龍宏氏講演資料  
[http://anzen-kodomo.jp/column/kyoudou/sympo04/sym\\_01.pdf](http://anzen-kodomo.jp/column/kyoudou/sympo04/sym_01.pdf)

## 5. 今月のキーワード

---

### 「Ai」

Aiとは、死亡時画像病理診断 (Autopsy imaging) の略称です。検診で用いられるCTやMRIなどで遺体を撮影し、その死後画像を活用して死因を判断するこの取組みについて、厚生労働省の検討会が報告書案をとりまとめました。

死因を究明することは、亡くなった正確な理由を知りたいとの遺族の思いに応えるだけでなく、犯罪死の見逃し防止の観点からも重要です。死因を究明する方法のうち、最も精度が高い手法は解剖と考えられていますが、全国の警察が昨年1年間に扱った遺体の解剖率は11%程度に留まっているとのこと。解剖率の低さの原因の一つとして挙げられているのが、遺族等の承諾が得られないことです。

そこで、遺体を傷つけることない死亡時画像診断は、遺族が解剖を望まない場合も含め、死因究明の有効な手法の一つとして活用が期待されています。特に子どもの身体的虐待の場合、加害者の多くはその保護者であり、解剖に同意することは考えにくく、外傷を負った原因について医療従事者に申告することは考えにくいので、虐待事例の見逃し防止という観点からも有用性が高いと考えられるとのこと。

厚生労働省 死因究明に資する死亡時画像診断の活用に関する検討会  
報告書案

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000014gy7-att/2r98520000014h24.pdf>

\*\*\*\*\*

### 「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

[c-info@anzen-kodomo.jp](mailto:c-info@anzen-kodomo.jp)

■発行日 2011年7月1日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>

\*\*\*\*\*